

資料編

【資料1】	「不登校への対応」に関するチェック票（例）	…33
【資料2】	子ども理解のためのチェック票（例）	…34
【資料3】	不登校等個人記録表（例）	…35
【資料4】	ケース検討会資料（例）	…36
【資料5】	個別支援連絡票（例）	…37
【資料6】	中学校卒業時の配付資料	…38
【資料7】	教育相談全体計画・年間計画（例）	…42
【資料8】	教育相談に関する共通理解事項（例）	…44
【資料9】	定期教育相談子ども向けアンケート（例）	…47
【資料10】	定期教育相談保護者向けアンケート（例）	…52
【資料11】	相談室、スクールカウンセラーだより（例）	…53
【資料12】	子どもと親のサポートセンター事業概要	…56

「不登校への対応」に関するチェック票（例）

（ ） 学校

(1) 早期対応について		評価
①	毎朝、学級での出欠確認の後、担任等が、職員室等の「出欠一覧」に確実に記入しているか。(欠席、遅刻等)	
②	児童生徒の出欠状況が、校長をはじめ、全教職員で情報共有されているか。	
③	他の教員、養護教諭等から、気になる児童生徒の情報が担任に集まっているか。	
④	欠席者への電話連絡、家庭訪問のタイミング等が、校内で統一されているか。 (例：1日目は電話連絡、2日目は家庭訪問 等)	
⑤	前年度（あるいは過去数年）の出欠席の情報を把握しているか。	
⑥	不登校傾向が見られたら、担任だけでなく、関係者が集まって情報交換する場が設定されているか。	
⑦	健康観察簿や出席簿をもとに、生徒指導主任等による分析が定期的になされているか。	
(2) 学校の指導体制について		評価
①	日頃から、積極的に言葉かけをするなどして、児童生徒との信頼関係づくりに努め、一人ひとりを大切にした教育が実践されているか。	
②	児童生徒の「心」を受容し、「心」に働きかけていく共感的な対応ができているか。	
③	児童生徒が不安や悩みを気軽に相談できる教育相談体制が充実しているか。	
④	担任に任せきりでなく、組織（チーム）による対応ができているか。	
⑤	スクールカウンセラーや教育支援センター等の効果的な活用がなされているか。	
⑥	ケース会議などで、不登校児童生徒の状況及び対応の方向性等が協議されているか。	
⑦	全教職員に不登校児童生徒の情報が行き届き、対応についての共通理解がなされているか。	
⑧	個人記録票等を用意し、本人の状況、保護者の考え、学校の対応、関係機関との連携等、継続的な支援や対応がまとめられているか。	
⑨	校長（管理職）がリーダーシップを発揮しているか。	
⑩	不登校や教育相談、人間関係づくり等の教職員研修を行っているか。	
(3) 家庭や関係機関とのかかわり、校種間の連携について		評価
①	不登校児童生徒の家庭との連絡（電話、手紙等）は、十分とれているか。	
②	長期の不登校児童生徒の家庭訪問を計画的に実施しているか。	
③	「ともに子どもの成長を見守る」という視点に立って保護者の支援に当たっているか。	
④	学校や進路に関する情報提供や必要に応じて相談機関などの紹介をしているか。	
⑤	教育支援センター等に通っている児童生徒がいる場合、定期的に訪問するなど、連携しながら支援に当たっているか。	
⑥	校種間で、上級学校に進級する児童生徒の綿密な情報交換がなされているか。	
⑦	校種間で、児童生徒の交流活動や教員の交流等がなされているか。	
(4) 学校生活の改善充実について		評価
①	授業の内容や方法の改善に努め、学ぶ楽しさとわかる喜びを味わえる、一人ひとりに応じた授業が展開されているか。	
②	児童生徒が主体的に活動する場を設定しているか。	
③	児童生徒が体験的に学べる場を設定しているか。	
④	自己有用感が味わえるような学級経営がなされているか。	
⑤	学級等で、AFPYや構成的グループ・エンカウンターなど人間関係づくりにかかわる取組等を行っているか。	
⑥	朝の会・終わりの会等の時間を、単に事務連絡に終わらせることなく、心に響く話をしたり、人間関係を深める活動をさせるなど、工夫しているか。	

※ A（優れている）、B（よい）、C（もう少し努力が必要）、D（より努力が必要）で評価してください。

子ども理解のためのチェック票（例）

資料 2

年 組 氏名：

男・女

(1) 本人に関すること	有無
① 登校の意志はあるか。	
② 学習意欲はあるか。	
③ 表情が暗かったり、口数が減るなどの状況はないか。	
④ 休み明けや特定の曜日などに休む場合がないか。	
⑤ 不注意、多動、衝動などの気になる行動はないか。	
⑥ 将来の進路が定まらないなど、進路に関する不安はないか。	
⑦ 問題行動が見られないか。	
⑧ 無気力な態度をとりがちでないか。	
⑨ 学校に行く意義を認めないなど意図的な拒否がないか。	
⑩ 身体の不調や漠然とした不安はないか。	
⑪ 登校刺激に対するすくみ反応はないか。	
⑫ その他	
(2) 学校生活に関すること	有無
① 入学や進級時の不適応はないか。	
② いじめを受けていないか。	
③ けんかなどの友人関係のトラブルはないか。	
④ クラブ活動・部活動でのトラブルはないか。	
⑤ クラスなどに仲の良い友達や相談できる友達はあるか。	
⑥ 授業がわからないなど学習面でのつまずきはないか。	
⑦ 学校の決まりなどが守れないなど、規範意識に課題はないか。	
⑧ 教職員への反発などのトラブルはないか。	
⑨ その他	
(3) 家庭に関すること	有無
① 保護者に登校させようとする意志はあるか。	
② 保護者への反発などのトラブルはないか。	
③ 起床・就寝時刻、食事の状況などの生活リズムの乱れはないか。	
④ 保護者の単身赴任などの家庭環境の急激な変化はないか。	
⑤ 両親の不和など家庭内に本人の心配事はないか。	
⑥ 学校と保護者との連携はとれているか。	
⑦ その他	
(4) その他	有無
① スポーツ少年団活動や塾などでのトラブルはないか。	
② 校外の交友関係に課題はないか。	
③ その他	

【取扱注意】

資料 3

記録票(例)

〇〇立〇〇中学校 〇年〇組

氏名: 男・女

国立教育政策研究所生徒指導
研究センター作成の記録票

学級担任: □□■ ■

担当者氏名: △△▲▲

(小)からの情報連絡票
における「区分」

不登校経験なし

○ 出欠の状況

月	欠席した日等	欠席日数計	別室(保健室) 登校日数計
4月	14(月)、17(木)、21(月)、22(火)、23(水)遅刻	4	0
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			
計		4	0

記入者名	日時	対応者、対応の内容	生徒・保護者の様子
□□	4/17	保護者に電話した後、記録票作成開始	体調が悪いので、休ませた。 (母親)
□□	4/18	登校してきた様子を教室で観察(特に、変わった様子はなかった。)	
□□	4/21	保護者に電話で様子を確認	本人が、体調が悪いと訴えた。 土日は特に変わった様子はな かった。(母親)
△△	4/22	欠席累計3日 他の欠席生徒とともに、学年会で対応を検討。校長、生徒指導主任、SCIにも参加してもらう。以下のことを決定。 ・担任及び教科担任が、登校時や、授業中の様子を把握し、△△が集約する。 ・□□が、△△と連携して、本人・保護者との連絡をとる。	
△△	4/23	遅刻して登校。□□と△△で面談。	
効果のあった対応やうまくいかなかった対応、考えられる原因等を記入するとよい			

ケース会議資料(例)

学年・組 児童生徒氏名 (性別)(年齢)

◎友人関係等(対人関係等も含む)

◎保護者の意見等

- 家族構成
- 保護者の本人への期待(思い)
- 保護者の学校への思い等

◎家での様子

◎学力・性格等

◎これまでの経過

	就学まで	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
本人の様子										
欠席 遅刻等										
学校の かかわり等										
関係機関との かかわり										

校内でのケース会議での資料作成様式例です。
 (分かっている範囲で記入し、今後の支援等を検討します。)

個別支援連絡票（例）

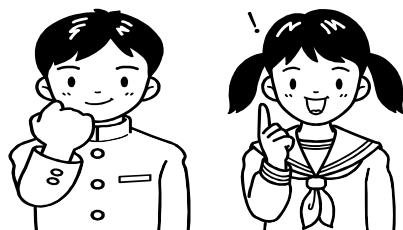
出身小学校名		年	組	出席番号	氏名	性別	記入者
進学先中学校名							
欠席日数	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	
■長期欠席の理由やきっかけ <input type="checkbox"/> 病気・身体の不調（ ） <input type="checkbox"/> 友人との関係の問題 <input type="checkbox"/> 学業上の問題 <input type="checkbox"/> 学校環境の変化 <input type="checkbox"/> 家庭環境の変化 <input type="checkbox"/> その他（ ）							
■登校への現在の意欲 <input type="checkbox"/> 積極的 <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 消極的							
■学習への意欲 <input type="checkbox"/> 積極的 <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 消極的							
■本人の性格（気付きを書いてください。） <input type="checkbox"/> まじめ <input type="checkbox"/> 優しい <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>							
■学校生活での様子・友人関係等				■学習面での特徴			
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> 転学や高校入学などの際にも、活用が可能です。 </div>							
				好きな教科		苦手な教科	
好きな活動							
苦手な活動							
興味関心・趣味							
■担任記入欄：本児に対して行った支援・配慮				■担任記入欄：今後、期待する指導や援助			
■管理職記入欄：本児に対して行った支援・配慮				■管理職記入欄：今後、期待する指導や援助			
■家庭との連携状況				■関係機関との連携状況			

〇〇中学校を卒業するあなたへ

◎◎◎立〇〇中学校

〇〇中学校には、あなたのことを心配している先生がいます。15歳になったあなたが、これからの人生で迷ったり悩んだり決心したりしたときは、遠慮なく〇〇中学校に電話をください。

*〇〇中学校 (TEL △△△△-△△-△△△△)



中学校に電話をするときは・・・。
「平成◆年3月に卒業した●●●●といます。
進路について相談したいのですが、■●●●先生
は、いらっしゃいますか。」

「進学したい」と思ったら

*進学するには、受験するための書類が必要です。

〇〇中学校に連絡して書類を準備しましょう。

中学校に連絡すれば、高校の情報や受験に向けての準備の仕方について教えるとともに、あなたと一緒に考えてみます。

*県内の高等学校については、インターネットで確認することもできます。

◎中学生のための学校紹介

HPアドレス:

<http://www.ysn21.jp/s-navi/kyouiku/>



「就職したい」と思ったら

*求人情報（働くことができる事業所の情報）について、地元の〇〇ハローワークに相談しましょう。

◎〇〇ハローワーク

(TEL 〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇)

*その他にも支援してもらえる場所が県内にあります。

◎若者サポートステーション

・周南 TEL0834-27-6270

HPアドレス:<http://s-saposute.com/>

・防府 TEL0835-28-3808

HPアドレス:<http://h-saposute.org/>

・宇部 TEL0836-36-6666

HPアドレス:<http://ube-saposute.com/>

◎若者就職支援センター

YYジョブサロン

(TEL 083-976-1145)

心や身体の健康について悩んだら

*心や身体の健康について不安を感じたときは専門の方に相談してみるのも良い方法です。

心の問題について

◎心の健康電話相談 (TEL0836-58-5570) 月～金 9:00～11:30, 13:00～16:00
学校のこと・勉強のことについて

◎ふれあいテレフォン (TEL083-987-1240) 月～金 9:00～17:00(留守電有り)
学校のこと・家のこと・友達のことについて

◎チャイルドラインやまぐち (TEL083-972-2211) 火・金 15:00～21:00

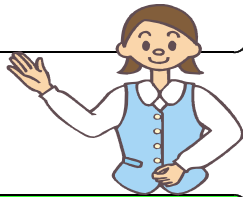
〇〇中学校を卒業されるお子さんをお持ちの保護者の方へ

◎◎◎立〇〇中学校

〇〇中学校では、今後の社会的自立の一助となるよう、お子さんに参考となる資料をお渡ししておりますが、保護者の皆様にも、今後の様々な進路や相談先等についてご案内いたします。卒業後お困りのことがございましたら遠慮なくご相談ください。(〇〇中学校 TEL: □□□-□□□□)

進学について

* 高等学校・高等専門学校・専修学校などがあります。(別紙参照)
 * なお、進学するには、受験するための書類が必要となります。中学校に連絡していただければ書類等を準備いたします。



心や身体の健康相談について

* 心や身体の健康についての専門相談は以下の機関が受け付けています。

- 心の問題について
 - ◎ **こころの健康電話相談**
 (TEL0835-27-3388)
 山口県精神保健福祉センター
 - ◎ **思春期ほっとダイヤル**
 (TEL0835-24-1140)
 県立総合医療センター
- 学校・勉強のことについて
 - ◎ **ふれあいテレフォン**
 (保護者向けあり)
 (TEL083-987-1240)
- 学校・家・友達について
 - ◎ **チャイルドラインやまぐち**
 (TEL083-972-2211)

就職について

◎ **ハローワーク** 求人情報

岩国(0827-21-3281)	この5か所では、臨床心理士が、就業の悩みなど専門的な相談に応じています	その他のハローワーク	柳井(0820-22-2661)
徳山(0834-31-1950)			下松(0833-41-0870)
山口(083-922-0043)			防府(0835-22-3855)
宇部(0836-31-0164)			山陽小野田(0836-81-4511)
下関(083-222-4031)			長門分室萩(0837-22-8609) (0838-22-0714)

* その他にも就労のための相談・支援場所があります。

◎ **若者就職支援センター(YYジ ョブ サロ)**
 相談から情報提供、能力開発、職業紹介に至る一連の就職支援サービスを提供しています。
 山口市小郡高砂町1-20
 TEL: 083-976-1145
 (HPアドレス: <http://www.joby.jp/>)

◎ **若者サポートステーション**

- 一人ひとりにふさわしい就労支援プログラムを一緒に考え、就労を応援します。
- ◆ しゅうなん若者サポートステーション
 周南市岐山通り1-4 周南市市民館内1F
 TEL: 0834-27-6270
 (HPアドレス: <http://s-saposute.com/>)
- ◆ ほうふ若者サポートステーション
 防府市栄町1-1-17
 TEL: 0835-28-3808
 (HPアドレス: <http://h-saposute.org/>)
- ◆ うべ若者サポートステーション
 宇部市新天町1-2-36 まちづくりプラザ3F
 TEL: 0836-36-6666
 (HPアドレス: <http://ube-saposute.com/>)

その他 (体験活動の紹介について)

◎ **体験活動**
 福祉活動やボランティア活動などへの参加を通して社会参加への機会を提供し、青少年の自立を支援するためのプログラム等が実施されています。詳しい内容については、下記にお問い合わせください。

社会福祉法人 山口県社会福祉協議会 福祉人材・研修センター
 山口市大手町9-6 山口県社会福祉会館内
 TEL 083-924-2777

◇ 進学について

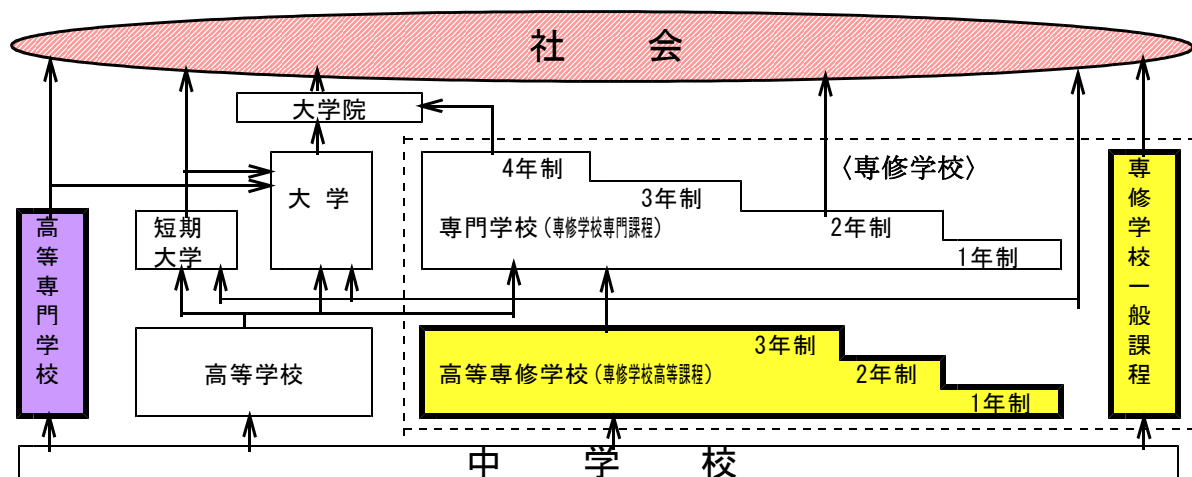
□ 中学校卒業の資格で受験できる学校について

中学校を卒業した後の各学校への進学については、下図のようになっています。

そのうち、高等学校以外で、中学校卒業の資格で受験し、入学できるのは太線の学校（高等専門学校、高等専修学校、専修学校一般課程）です。

専修学校の詳細については、文部科学省のホームページ（http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/main11_a1.htm）から「専修学校・各種学校教育の振興」にアクセスして情報を得るか、本校に相談してください。

なお、県内の高等専門学校は、宇部工業高等専門学校・徳山工業高等専門学校・大島商船高等専門学校の3校です。



□ 専修学校の学科について

県内の専修学校には、福祉科・経理情報科・高等科・准看護科・理容科・美容科・調理師科などの学科があります。

詳細は、山口県のホームページ（<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp>）から「山口県内の私立専修学校一覧表」にアクセスして、情報を得てください。

なお、受験にあたっては、必ず受験資格（中学校卒業程度）等を確認してください。

□ 「高等学校卒業程度認定試験」について

「高等学校卒業程度認定試験」は、高等学校を卒業していない人が、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があるかどうかを認定するための試験です。

試験の合格者は、国・公・私立すべての大学、短大、専門学校でも受験でき、就職や各種の資格試験等においても活用することができます。

平成16年度まで実施されていた「大学入学資格検定」とは、試験科目や全日制高等学校に在籍していても受験できること等が異なります。

なお、「高等学校卒業程度認定試験」に合格すると、合格者は高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められますが、最終学歴は「高等学校卒業」ではありません。

実施時期は、例年8月と11月の年2回実施されています。実施期日・実施科目・出願期日等詳細を知りたい場合は、文部科学省(代表電話03-5253-4111)に電話で問い合わせるか、インターネットを利用して調べてください。

なお、認定をうけるためには8科目(「現代社会」を選択した場合)または9科目(「倫理」および「政治・経済」を選択した場合)に合格しなければなりません。

(「高卒認定【高認】情報センター」(<http://www.kounin.org/index.html>)の「文部科学省からの情報」から受験案内参照)

学校教育相談全体計画

教育相談部

1 学校教育相談の意義

近年、児童生徒の問題行動は一層深刻さを増し、社会問題として取り上げられ、当面する数多くの教育諸課題のうち最重要課題の一つとなってきた。生徒指導に一層力を入れ、課題解決と適切な対応に当たっていく必要がある。

そこで、今後、ますますその役割に期待がかかるものが学校教育相談である。教育相談とは、単に非行対策、不登校児への対応といった消極的な面だけでなく、開発的・積極的にすべての児童それぞれの人格のよりよい発達をめざすと共に、学校生活が一人ひとりの児童にとって、充実した自己実現をめざすものとなるよう支援する取組である。しかも、個別的な指導を行う際の基本的な部分を占めるものとして、重要な役割を担っている。

2 学校教育相談の目的

- ① 児童一人ひとりの個性の伸長を図りながら、自己実現ができるような資質や能力を育成する。
- ② 児童一人ひとりの内面を把握・理解すると共に、児童が抱える悩みや問題を解決する。
- ③ 教師と児童、児童相互の人間関係、信頼関係（リレーション）を構築する。
- ④ 抑圧され見失われている真の自己を再発見すること、自分の個性やスタイルや可能性を含めて、人間としての全体的機能を回復することに中心的な力点を置く。

3 学校教育相談の基礎

学校教育相談は、教育相談室の中で特定の方法（来談面接）によって定期的を実施する場合と、日常様々な機会を捉えて必要に応じて随時行う（チャンス面接）場合があるが、小学校児童ではチャンス面接の方が頻度が高い。

そのためには、日ごろから児童との間に、教育相談がいつでも効果的に進められるような関係をつくり、それに基づいて個々の児童を理解するための資料を収集する努力を重ねていく必要がある。

- ・教育相談を生かした授業
- ・教育相談を生かした学級経営
- ・遊び・レクレーションを通じたふれあい（グループエンカウンター等）
- ・共に汗する体験の共有

4 学校教育相談年間計画

学校生活についてのアンケートで配慮が必要と思われる児童を中心に、各担任が相談室等で定期的に児童一人ひとりと教育相談を行う。また、担任以外の教師と話してみたいことを希望する児童で、その希望がかなえられていない場合には、担任が場を設定し、話す機会を与える。実施後は、教育相談の時の内容を簡単に記録しておき、必要な場合には全職員で共通理解あるいは協議する機会を持つ。

① アンケートの実施

10項目の質問紙を全児童に実施し、面接による内面理解の補助資料とする。

② 児童の面接

アンケートを実施した後、アンケート結果から気になる子を抽出し、マンツーマンの面接を実施していく。必要に応じて、心理テストを実施する。

③ 面接後の経過観察

日々の児童の顔色、訴え、行動、ネットワークを観察し、必要に応じて再度の面接や遊びを通して、児童の自己実現を図る。

	アンケート	面接	事後
1学期	5月後半	6月	・学級経営に生かす ・職員で共通理解し、今後の指導に生かす
2学期	10月中旬	11月	・学級経営に生かす ・職員で共通理解し、今後の指導に生かす
3学期	1月中旬	2月	・学級経営に生かす ・職員で共通理解し、今後の指導に生かす。 ・新年度クラス編成時の参考資料とする

④ 保護者対象の教育相談

相談を希望する保護者と担任が話し合いの機会を持つことにより、保護者と担任の連携を強化し、児童に対する理解を深め、児童に対してよりよい関わりができるようにする。

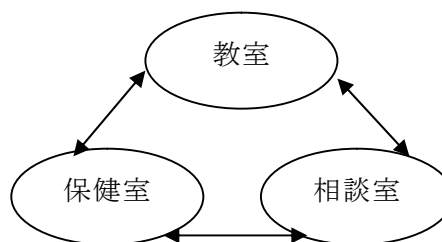
※ 保護者との学級教育相談月間を年1回設ける・・・11月

(全家庭に「ぼかぼか相談室だより」を配布し、相談希望保護者と、速やかに話し合いの場を持つ。)

5 教育相談室の設置と運営

① 学校の中での相談室の位置

- 学級・保健室の補助的な役割
- 教室の中で居場所の見出せない児童の場所
- 保健室から教室へ帰る児童の一時待機場所
- 安らぎを求める児童に対する憩いの場所
- 不登校傾向・保健室登校・頻繁な保健室来談児童
の他児童との人間関係（リレーション）づくりの場
- 児童の自己実現、自己表現力の伸長の場



② 教育相談室の組織への位置付け

- 校務分掌の生徒指導部の所属として、主として教育相談係で担当する

③ 教育相談室の設置場所と環境

- 2校舎3階「ぼかぼか相談室」と1校舎ランチルーム内
- 特別の児童のみが対象ではなく全児童を対象とする
- 保護者からの相談に随時応じられる体制づくり

6 その他

- 専門関係機関との連携
 - ・児童相談所
 - ・やまぐち総合教育支援センター
 - ・内子どもと親のサポートセンター
 - ・ふれあい教育センター
 - ・公的、民間心理相談室
 - ・病院
 - ・その他

教育相談関係 1 不登校に関してかならず実行して欲しいこと

ポイント1・・・自分はかけがえのない大切な人間なのだという存在感を与えて、クラスに居場所をつくる

- ☆欠席した生徒への対応に最大限の配慮を。
 - ・朝、ホワイトボードで学年全体に連絡。
(無届け、本人の欠席届の場合は、必ず確認の電話を入れる)
 - ・欠席をクラス全体に伝える(「〇〇さんは風邪です。心配だね」等)
 - ・電話や友人を通じて翌日の日課伝達、心配している気持ちなどを確実に伝える。
- ☆3日続けて欠席したら、どんなに忙しくても家庭訪問する。
 - ・配布物を届ける。
 - ・保護者と会う。
(電話で済むことでも足を運んで直接顔を見て話すことが大切。特に保護者には誠意が伝わるはずです。)
- ☆休んだ翌日登校してきたら、担任とクラスの友人であたたかい声かけをする。
 - ・意識しすぎず自然な雰囲気で。
(通院して遅刻してきた生徒や具合が悪くて早退する生徒にも同じようにあたたかい声かけをしてください)
 - ・遅刻や早退もホワイトボードに記入し、生徒の動向が共通理解できるように。

ポイント2・・・保護者との人間関係をつくる

- ☆電話や家庭訪問でしっかり話をし、意思の疎通をはかっておく。
 - ・保護者の教育方針や家庭環境などを責めるような言動は慎むこと
 - ・保護者の悩みを共有するような姿勢で臨むこと
- ☆学校生活の様子、本人の変化等を必ず知らせておくこと。
 - ・後で保護者が知らなかったということが絶対ないように。

ポイント3・・・積極的に生徒理解に努める

- ☆教育相談は必ず全員に実施する。
 - ・年3回、学期に1度(6月、11月、1月)定期教育相談を実施する。
- ☆声かけ、日記指導などいろいろな方法で、1日1回はクラスの生徒全員と言葉をかわす。

- ・授業中、廊下の通りすがり、登下校、・・・チャンスを見つけて一声かけて下さい。「〇〇さん、部活頑張っちゃうかね。」「はい。」これだけでも「今日は△△先生と話ができた。」と感じてくれるはずですよ。
- ・表情、体調、変化に敏感に。
- ・おかしいと思ったらすぐに呼び出し相談を。

- ☆友人作りの援助を。
 - ・現在の子もたちは人間関係づくりを苦手とする傾向があるので、旅行行事、レクリエーション、助け合い学習などを通じて、集団づくりを仕組み、いろいろな場面で支援する必要があります。

ポイント4・・・学級担任がひとりで担当するのではなく、みんなで指導する

- ☆心配な生徒については、学年全員(必要があれば全校)で声かけをする。
 - ・職朝で頻繁に情報交換を。
 - ・生徒に応じた声のかけ方まで共通理解しておく。
- ☆心配な生徒については教科担任にも積極的にかかわって指導してもらおう。
 - ・授業への出席確認と、不明な場合の連絡を必ず職員室へ
 - ・気になる授業での様子はできるだけ早く、担任と次の教科担任へ→学年で理解
- ☆心配な生徒については保健室としっかり連携をとる。
 - ・具合が悪くて休んでいる生徒がいれば、学級担任は必ず1回は保健室をのぞいて声かけを。
 - ・〇〇先生としっかり情報交換をすること。
- ☆心配な生徒については部活顧問の指導も効果的。また、変化もつかみやすい。
- ☆心配な生徒については生徒指導部に必ず連絡し、外部機関などの活用をする。

ポイント5・・・記録をしっかりとる

- ☆日時、本人の様子や言動、変化、指導内容とその効果、保護者の考えなどを必ず記録しておく。

個人面接のポイント

生徒一人ひとり、興味・進路希望などが違い、生育歴・家庭環境などそれぞれ異なっている。私達は、できるだけまず生徒のありのままを理解し、生徒が自分の力で自己実現を図れるよう助言していきたい。そこで、生徒の内面にまで迫る生徒理解を行うためには、カウンセリングマインドに基づいた支援が大切である。以下、個人面接を実のあるものにするためのカウンセリングマインドの具体例を挙げてみる。

(1) 何でも言える雰囲気をつくる

生徒は、担任と毎日接しているが、1対1となると心理的にかなり抵抗感をもつ。「恥ずかしい。」「自分の話を聞いて本当に心配してくれるだろうか。」「くだらない話だとは思わないだろうか。」などなど。この抵抗感を少なくするために、相談の場所を教師の都合のよい場所ではなく、生徒が安心できる場所にするとか、座り方を変えてみるなどの工夫が必要となってくる。また、面接をしているときはいつも親和的・肯定的な態度で応じ、相手に対する温かい思いやりがいつもベースにあることが大切である。

(2) 生徒が話したいことを優先する

面接の中で担任として聞きたいこと、確かめたいことはたくさんあると思うが、それを我慢して、生徒が話したいことを優先させ、十分耳を傾けなければならない。そして、どうしても聞く必要があれば、一番最後に「これはどうなっているの。」と訪ねるくらいがよい。

(3) 事実より気持ちに重点を置く

問題が起こったとき、「いつ・どこで・誰が・どうした」ということを確かめたいものであるが、生徒が今後どのように対応するかを考えられるようにするためには、最初に生徒自身が、その時の気持ちや、なぜそんなことをしたのか、現在どう思っているかという、生徒の心にポイントを絞った面接が必要になってくる。問題行動の背景にあるものを、自分で理解することによって、心の安定がもたらされる。

(4) 教師が生徒の鏡になる

生徒は自分の言動について、自分がやっていることだからわかっているつもりであるが、鏡の役割を果たすものが近くにいると、今まで気づかなかった自分に気づくことがある。例えば、生徒の言動を教師が「オウム返し」のように、本人の前で反復する。そうすることにより、自分の感情の動きを、人に指摘されるのではなく、自分で気づいていくのである。

(5) 共感的理解に心掛ける

生徒に素直な気持ちを語ってもらうためには、生徒に対する先入観を捨て、生徒の話すことを積極的に傾聴（単に聞くのではない）し、生徒の気持ちになって理解しようとする姿勢（共感的理解）を示すことが必要である。

そのために、受け止めた話の内容や相手の気持ちを繰り返して話したり、「こういう気持ちでいるのかな。こういうことを言いたかったのかな。」というように、生徒の表明した感情の、本人にとって重要と思われることを、相手の立場で理解し、そのことを伝えたり、確認したりすることが大切である。また、「自分の気持ちや訴えたかったことが先生に伝わっている。」という感じをもたせるために、1回1回の面接の最後には、その面接で本人が最も訴えたかったことをまとめて話し、確認することが必要である。

相談室登校について

〇〇中学校教育相談担当

1 対象生徒

- (1) 長期不登校で学校に登校することができても教室に入ることができない生徒
- (2) 教室教育支援センターから学級へ復帰する生徒
- (3) 不登校の初期段階の生徒
- (4) 情緒不安定な生徒の一時的な避難の場
- (5) 人間関係を築くことが苦手で、特別な支援を要する生徒

2 相談室使用についての共通理解

- (1) 相談室に入る際には十分話し合いをする。
- (2) スクールカウンセラーのカウンセリングを受ける(生徒、保護者)。状況に応じて専門機関や相談機関の紹介をする。
- (3) 生徒の支援の在り方について、関係者で話し合いをもつ。
- (4) 該当学年の教員全員で関わり、担任との連携を密にとる。
- (5) 月1回の校長面接を行う機会を設ける。

3 運営の方法

- (1) 朝と帰り、副担任が登校・下校の確認をする。終学活は必ず該当学年の教員が対応する。
- (2) デイリーライフを提出させ、担任と密な関わりをもたせる。
- (3) 該当学年の教員を中心に、空き時間に授業に行ったり学習課題の支援をする。
- (4) 給食時間は該当学年の教員でシフトを組み、必ずつく。
- (5) 行事や集会のとき等、参加するように働きかける。
- (6) 相談室日誌にその日の学習内容や反省などを記録させる。

4 相談室登校の方針

相談室登校はあくまでも一時的な措置であり、将来的に教室に復帰することを目標に指導をしていく。

＊教室復帰に向けて

学級での受け入れ態勢づくり(クラスへの所属感)

給食の運搬時や連絡係など、関わりを持てるように工夫する

休み時間にクラスメートの訪問

など

※生徒に応じたきめ細かく柔軟な個別・具体的な取組を行っていく

生活アンケートについて

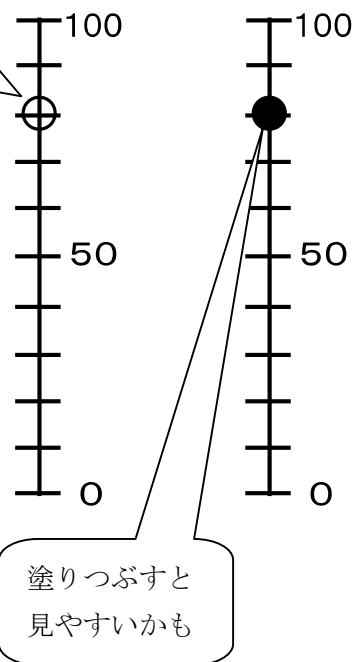
〇〇小学校生徒指導部

今回実施する方式を「スケーリングクエスチョン」といいます。スケール、つまり**定規**ですね。学習の振り返り（自己評価）などにはよく数段階の評定が使われますが、今回は、教育相談における使い方をご紹介します。

この手法は、「**解決志向アプローチ**」という分野の研究で紹介されたものです。研修会では、10点満点で習ったのですが、小学生には100点満点の方がなじみやすいかなと思い、今回100点満点のスケールにしました。

100点は、最高に幸せ。もう言うことなし。
0点は、もう最悪。これ以上ないくらい最低な状態。
さて、この項目、あなたは何点？と投げかけます。

80点なら
こんなふうに



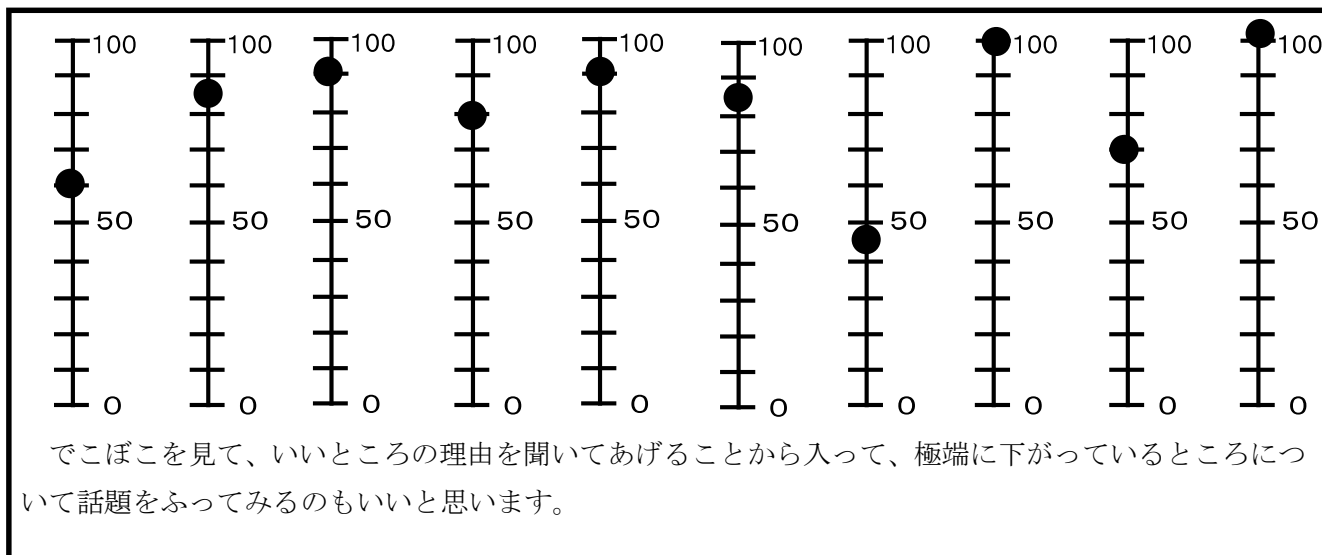
70点以下なら何かしら心に引っかかるものがある場合があります。

70点だった場合、「あとの30点はなんかねえ。」
または、「あと何がどうなったら、80点になる？」
等の質問につなげます。

50点を切ると大きな不安を抱えているかもしれません。

40点だった場合、「半分の50点に行かないのはどうして？」と聞く方法もありますが、逆に、「あまりよくないみたいだけど、それでも40点はあるんだよね。その40点分のいいところって何？」と聞く方法もあります。

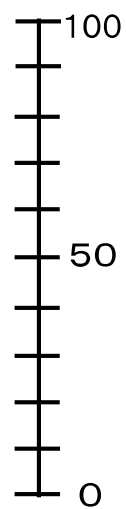
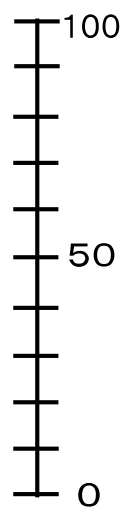
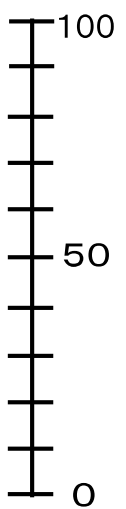
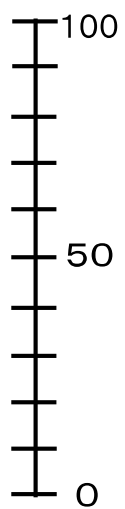
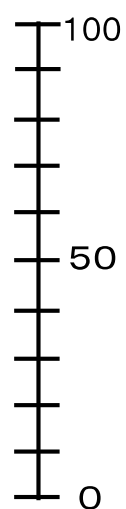
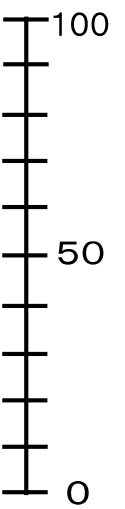
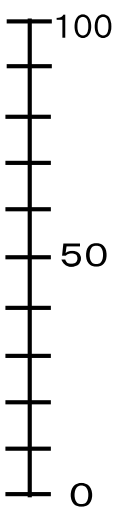
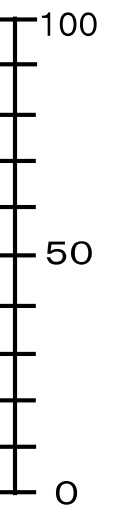
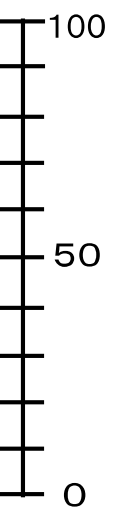
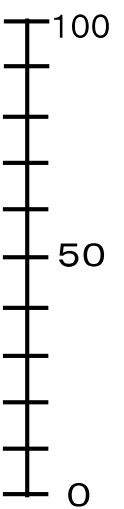
低い点数の回数が多い場合、悩みや心配事を抱えていると判断されます。数度の教育相談等によって本人を支えましょう。

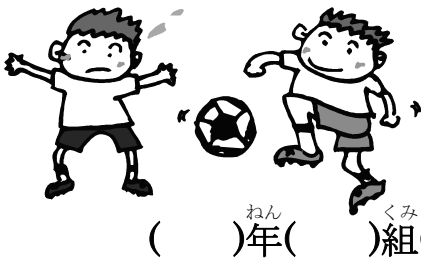


せいかつアンケート

(ねん) (くみ) (ばん)



<p>① 学校<small>がっこう</small>に行くのが楽しい<small>たの</small>い。</p>	
<p>② 学校<small>がっこう</small>のべんきょうが楽しい<small>たの</small>い。</p>	
<p>③ 自分<small>じぶん</small>のことがすき。</p>	
<p>④ 自分がチャレンジしたいことがある<small>じぶん</small>。</p>	
<p>⑤ 休み時間<small>やすみじかん</small>は、いっしょにあそんだり話<small>はなし</small>をしたりできる友<small>とも</small>だちがいる。</p>	
<p>⑥ こまったことやいろいろな話<small>はなし</small>ができる友<small>とも</small>だちがいる。</p>	
<p>⑦ こまったことがあったら先生<small>せんせい</small>にそうだんできる。</p>	
<p>⑧ 家<small>いえ</small>にいるときはほっとする。</p>	
<p>⑨ 家族<small>かぞく</small>がすき。</p>	
<p>⑩ 家<small>いえ</small>の人はやさしい<small>ひと</small>。</p>	



せいかつ
生活アンケート

()年()組()番 ()



つぎ ぶん 次の文につづけて、 あたま 頭 にうかんだことを書いてください。

- ① わたしは、休み時間、 _____
- ② わたしは、じゅぎょう 中、 _____
- ③ わたしの登校はんは、 _____
- ④ 学校で一番楽しいことは、 _____
- ⑤ 今、なかのよい友だちは、 _____
- ⑥ こまったことやつらいことがあったら、 _____
- ⑦ 自分のすきなところは、 _____
- ⑧ 自分のきれいなところは、 _____
- ⑨ 今、一番したいことは、 _____
- ⑩ わたしがなんでも話せる人は、 _____
- ⑪ わたしは、もっと担任の先生に(と)、 _____
- ⑫ () 先生と _____
- ⑬ わたしがつらいのは、 _____
- ⑭ わたしが楽しみなのは、 _____
- ⑮ わたしは休みの日、 _____
- ⑯ 朝は、 _____
- ⑰ 夜は、 _____
- ⑱ わたしの家族は、 _____

2 学期教育相談事前アンケート

資料 9 - ③

年 組 番 氏名

まもなく 2 学期の定期教育相談が始まります。〔1 1 月 6 日（金）～ 1 7 日（火）〕この教育相談は、今の自分を見つめ直したり、将来の自分について考えたりするきっかけとして、担任の先生と話してみませんか？「話すことなんて別にないよ。」とか「どんなことを話せばいいの？」とと思っている人もいることでしょう。

例えば、

- ・不安なことや悩みごとを打ちあけて、ちょっぴり気持ちを楽にする。
 - ・将来の夢や進路、自分の興味関心のあることを語り合いながら、自分の考えを少しずつはっきりさせていく。
 - ・自分の長所を生かしながら授業の受け方や勉強の仕方をどのように改善していったらよいか、考えてみる。
- など、人によって教育相談の利用の仕方はさまざまです。いろいろなことを話すことによって、自分自身や相手をもっと理解する・・・、そんな時間になればいいですね。

- 1 最近、学校は楽しいですか？ (はい いいえ)
 - ・どんな時が楽しいですか？ ()
 - ・学校に行きたくないと思ったことはありますか？それはどんな時ですか？ ()
- 2 最近、何かに行きづまって、不安を感じたり、悩んでいることはありませんか？
 - ・ある ()
 - ・ない
- 3 最近、理由もないのに不安になったり、落ち込んだり、イライラすることはないですか。 (ある ・ ない)
- 4 最近の体調等について、あてはまるものを○で囲んだり、数字を入れてください。
 - ・よく眠れる ・あまり眠れない ・睡眠時間が短い〔約 時間〕
 - ・食欲がある ・食欲がない ・保健室の利用は、週に約 () 回
- 5 授業はよくわかりますか？
 - ・よくわかる ・だいたいわかる ・わからないところがある ・わからない
 - ★よくわからない教科や内容は... ()
- 6 友人関係で何か困っていることはありますか？ (ある ・ ない)
 - ★困っていること ()
- 7 家庭での生活は楽しいですか？ (はい いいえ)
 - ★それはどんな時（こと）ですか？ ()
- 8 受験や進路に関して、わからないことや、不安に思っていること、悩んでいることがありますか。
 - (はい いいえ)
 - ★それはどんなことですか？

2学期も2ヶ月が過ぎました。今のあなたは元気ですか。以下の質問について、あてはまるところに○をつけてください。

()年()組()番 氏名()

	よくあてはまる	あてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
よく眠れない	5	4	3	2	1
寝つきが悪い	5	4	3	2	1
朝起きるのがつらい	5	4	3	2	1
体調のすぐれない日が多い	5	4	3	2	1
顔やスタイルのことが気になる	5	4	3	2	1
食べ物の好き嫌が多い	5	4	3	2	1
体力がない	5	4	3	2	1
毎日が何となくつまらない	5	4	3	2	1
ゆっくり休むひまがない	5	4	3	2	1
クラスになじめない	5	4	3	2	1
自分がみんなより不幸に思える	5	4	3	2	1
他人からいやなことを言われたりする	5	4	3	2	1
苦手な教科がある	5	4	3	2	1
勉強の仕方がわからない	5	4	3	2	1
勉強中に気が散りやすく集中できない	5	4	3	2	1
勉強と部活の両立ができない	5	4	3	2	1
塾に行くのがつらい	5	4	3	2	1
成績が思うようにあがらない	5	4	3	2	1
人とうまくつきあえない	5	4	3	2	1
自分の気持ちをうまく表現できない	5	4	3	2	1
自分に自信がない	5	4	3	2	1
すぐにイライラする	5	4	3	2	1
いやなことでもがまんしてしまう	5	4	3	2	1

就職か進学で迷っている	5	4	3	2	1
進路のことでわからないことがある	5	4	3	2	1
受験のことが気になる	5	4	3	2	1
進路について親と意見が合わない	5	4	3	2	1
親の期待が大きい	5	4	3	2	1
部活の同級生とうまくいかない	5	4	3	2	1
部活の先輩、後輩とうまくいかない	5	4	3	2	1
部活で疲れて、勉強ができない	5	4	3	2	1
なかなか上達しない	5	4	3	2	1
よく親子げんかをする	5	4	3	2	1
親が自分のことを理解してくれない	5	4	3	2	1
家族のことで心配ごとがある	5	4	3	2	1
兄弟姉妹とよく比べられる	5	4	3	2	1
家にいるのがおもしろくない	5	4	3	2	1
友達づきあいでトラブルになっている	5	4	3	2	1
いじめられる	5	4	3	2	1
仲間はずれにされることがある	5	4	3	2	1
異性のことが気になる	5	4	3	2	1

★何か悩み事がある、自分では解決できないときに相談できる人が
(いる いない よくわからない)

それは(家族 友達 先輩 後輩 先生 その他)

★他に今心配していることや、悩んでいること、困っていることがあれば書いてください。

★どの先生との相談を希望しますか？ () 先生
(希望が特にならない場合は担任の先生との相談になります)

※ 相談室カウンセラーとの相談を希望しますか。 はい いいえ

平成 年 月 日

保護者 様

〇〇市立〇〇小学校
校長 〇〇 〇〇

児童理解に関するアンケートについて

学校では日々、子供たちの元気のよい声が響いています。保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと拝察いたします。

さて、本校では、日々の授業や日記指導などを通して児童理解に努め、「いじめ」や「不登校」ゼロをめざして、全校で取り組んでいます。しかし、不安定な状態にある児童は、学校では表面化しなくても、家庭の中で様々な形で行動の変化を表すことも考えられます。

そこで、どんなことでも構いませんので、ご家庭でのお子さんの様子について何か気になることがありましたら、下記の要領でご記入の上、担任まで提出いただきたいと思います。

なお、ご記入になった内容については秘密厳守の上、児童理解や指導に役立てていきたいと思っております。ご理解の上、ご協力をお願いいたします。

記

- 1 提出期限 平成 年 月 日 ()
- 2 提出について
 - ・ 記名の上全員提出してください。特に記入事項がない場合には、「なし」とご記入ください。
 - ・ 空封筒などに入れて各担任へ提出してください。

----- キリトリ -----

児童理解に関するアンケート

() 年 () 組 児童氏名 ()

保護者氏名 ()

- 1 お子さんの様子で気になることがありますか。(・に○をつけてください)

- ・ 気になることがある
- ・ 気になることは特にない

☆「ある」方は、気になることを具体的にお書きください。

- 2 心の支援員の方、または教職員に面談を希望しますか。(・に○をつけてください)

- ・ 希望する
- ・ 希望しない

相談室だより

〇〇〇中学校 教育相談係

4月28日(火)

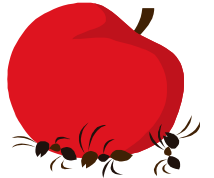
スクールカウンセラー来校日

【 1学期 】

5月8日(金) 6月5日(金) 7月3日(金)

元気回復法をもってる？

新学期はあわただしいものですね。中学校生活は、思春期といわれる時期です。この時期は自分のことや将来のこと、友達や異性のなどいろいろなことについて考え、不安に感じたり悩んだりするものです。でも不安や悩みをもつのは、一生懸命に生きている証拠です。ただ、不安や悩みの重みとバランスをとる力をつけることが大切です。あなたは、元気を回復させる方法をもっていますか？友達や大人に話す、好きなことをして紛らわすなど、いろいろな方法を身につけていってほしいと思います。



スクールカウンセラー

〇〇〇〇先生より

☆ 新学期スタート！みなさんよろしく！

こんにちは！今年度、〇〇〇中学校でスクールカウンセラーをさせていただく臨床心理士の〇〇〇〇(〇〇〇〇〇〇〇〇)です。1年生のみなさん、入学おめでとうございます！一日も早く中学校生活に慣れて、楽しい学校生活を過ごしてくださいね。2年生、3年生のみなさん、今年もよろしくお祈りします！充実した1年間になることをお祈りしています。



このお便りは、みなさんが読み終わったら、保護者の方にも渡してくださいね。

☆ スクールカウンセラーとは…？

スクールカウンセラーとは、みなさんが心も身体も健康に楽しく学校生活を過ごせるように、ちょこっとだけお手伝いをさせてもらう人のことです。「スクールカウンセラーに相談する」と言うと大層な感じがしますが、気軽に会いに来てくれるとうれしいです。友だちや部活動、勉強のこと、学校のこと、家庭のこと、将来の夢や好きな人のこと、困った時、疲れた時、悲しい時、うれしい時、どんな時でも声をかけてくださいね。

☆ スクールカウンセラーに会いたいときは…？

いくつか方法がありますが、

- ① 先生(担任、養護、教科、部活の先生)に話して、相談を申し込む。
- ② 『おはなしカード』を、職員室前にある「相談箱」に入れて申し込む。
- ③ スクールカウンセラーに直接、相談を申し込む。

などがあります。決まった方法はないので、気軽に会いに来てください。



☆ 保護者の皆様へ

今年度、〇〇〇中学校でスクールカウンセラーをさせていただきます〇〇〇〇(〇〇〇〇〇〇〇〇)と申します。中学生の時期は心身の発達においてとても大切ですが、それゆえにお子様自身や保護者の皆様が不安や葛藤を抱えていることが少なくないと思われます。友人関係や部活動、勉学や進路、時には恋の悩みに至るまで、様々な悩みを抱えている場合があります。ご家庭でお子様の様子が気になられた時は、どんなことでも結構ですでお気軽にスクールカウンセラーまでご相談ください。本校には、月に1回来校させていただく予定です。不定期の来校ですが、お子様が健やかに学校生活を過ごせるよう頑張ってお祈りしますので、今後ともよろしくお祈り申し上げます。



スクールカウンセラーだより



第 8 号

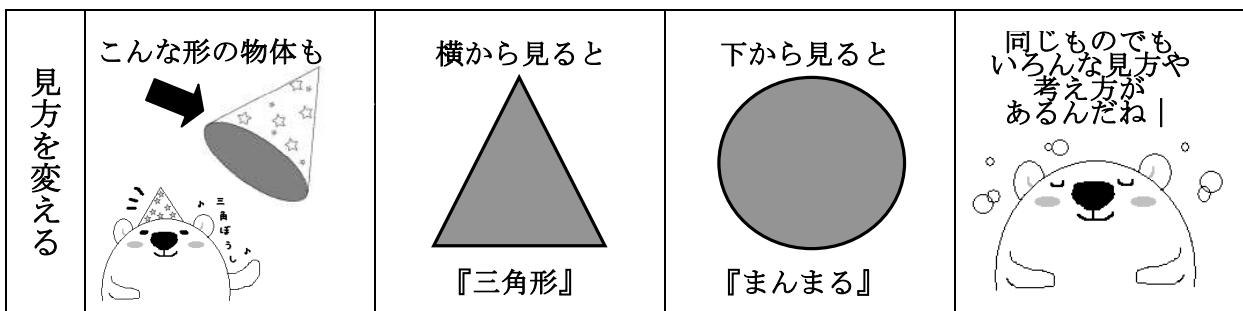
2010年最初のスクールカウンセラーだよりです。今年もよろしくお付き合いください。

皆さんは初詣に行つたでしょうか？私は毎年初詣に行くとおみくじを引くのですが、なかなか「大吉」ができません…。ちなみに、今年も「小吉」でした。



さて、このおみくじを「あーあ、小さい吉かよ。神様もケチだな」と残念に思うのか、「小さいけど神様がくれた吉だわ！」とありがたく思うのかでは、気分には大きな差が出ますね。

同じ出来事でも、いろいろな見方や感じ方があります。一つの見方だけで判断してしまうのではなく、「もしかしたら、こんな考え方もあるかも…」と想像をふくらませてみてください。嫌いだったものでも、「あれ？意外に平気かも」と思えるポイントが見つかるかもしれませんよ。



皆さんが今年1年、充実した学校生活を送れますように…



1月の来校予定

1月19日(火)…8:00～12:00/放課後

1月26日(火)…8:00～放課後



●生徒の皆さんへ…相談は放課後の時間になります。担任の先生、教育相談担当の〇〇先生、保健室の〇〇先生のどなたかに相談希望を伝えてください。もしくは、下の用紙に記入して渡してください。

●保護者の方へ…相談時間は1回につき1時間程度です。お子さまのことで相談を希望される方は担任までご連絡ください。下の用紙を古封筒に入れて提出されても結構です。

※日時を調整した後、改めてご連絡いたします。

申し込み用紙

()年()組 生徒氏名()

●相談希望者…【○をつけてください】 本人・保護者(続柄:)

●希望日時… 月 日 ※保護者の方は希望時間をお書き添えください【 時 分～】

子どもと親のサポートセンター

【教育相談】

総合電話相談

○相談時間

月・水・金…8：30～17：15

火・木 …8：30～21：00

・子どもふれあいテレホン

083-987-1241

・保護者ふれあいテレホン

083-987-1243

・教職員ふれあいテレホン

083-987-1244

・ふれあい総合テレホン

083-987-1240

・いじめ110番

083-987-1202

・ふれあいメール

soudan@center.ysn21.jp

・ふれあいFAX

083-987-1258

来所相談

○予約制

○予約受付は総合電話相談で受け付けます。

○心理・発達検査も行います。

○臨床心理士やスクールソーシャルワーカー、ネットアドバイザー等も相談に応じます。

要請相談

○園、学校に出向いて、子どもたちの支援の在り方を一緒に考えます。

○所属長から子どもと親のサポートセンター部長へ電話で申し込んで下さい。

【不登校の子どもと保護者へのサポート】

不登校児童生徒のための学習支援室

○毎週金曜日、10:00～15:00に開室

○学習支援に加えて、集団での体験活動も実施

不登校について考える親のつどい

○年3回程度実施

○講師（臨床心理士等）による講話と保護者同士の意見交換

【教職員研修のサポート】

支援研修（サテライト研修）

○いじめ・不登校・集団不適應等への対応、カウンセリングの在り方、学校教育相談の進め方、人間関係づくり等の校内研修や教育研究会を支援

○内容、申込み方法等詳細は、やまぐち総合教育支援センターWebページに掲載

※詳しい内容等については、子どもと親のサポートセンターにお問い合わせ下さい。

子どもと親のサポートセンター（やまぐち総合教育支援センター内）
月曜日から金曜日（祝日・年末年始 [12/29～1/3]は除く）
〒754-0893 山口市秋穂二島1062番地
TEL (083) 987-1240